

吾妻山の火山活動解説資料

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

<火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続>

昨日（25日）、陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、前回（1月10日）の上空からの観測と比較して、大穴火口とその周辺の地熱域に大きな変化はみられませんでした。

【防災上の警戒事項等】

大穴火口から概ね1.5kmの範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石¹⁾、火山ガスに注意してください。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～3）

昨日（25日）、陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、引き続き大穴火口とその周辺に地熱域が認められました。また、大穴火口から高さ約30mの噴気を観測し、大穴火口北西では弱い噴気を確認しました。これまでの観測と比較して、大穴火口北西の地熱域では、南側で地熱域の拡大、北側で縮小が確認されたものの、大穴火口とその周辺の地熱域に大きな変化はみられませんでした。

- 1) 噴石は、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中の「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。

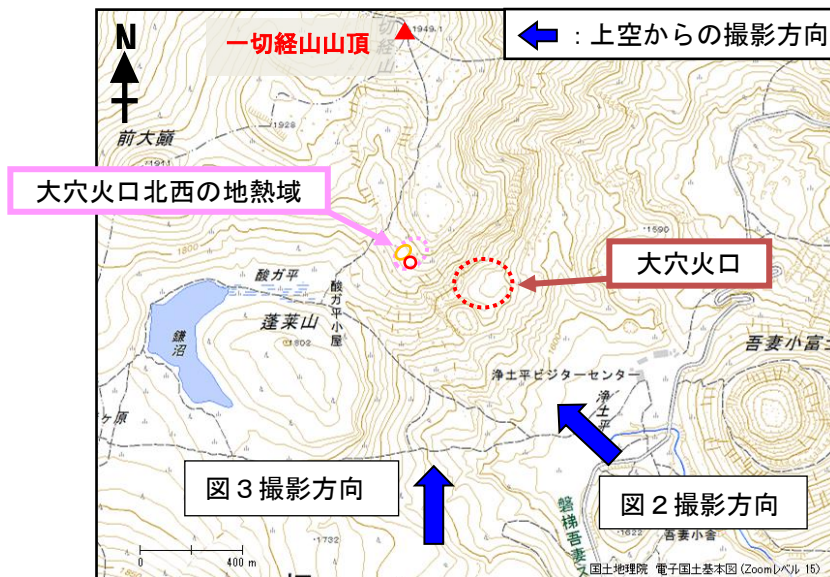


図1 吾妻山 大穴火口付近の噴気と地熱域の分布及び写真と地表面温度分布²⁾ 撮影方向

- 2) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

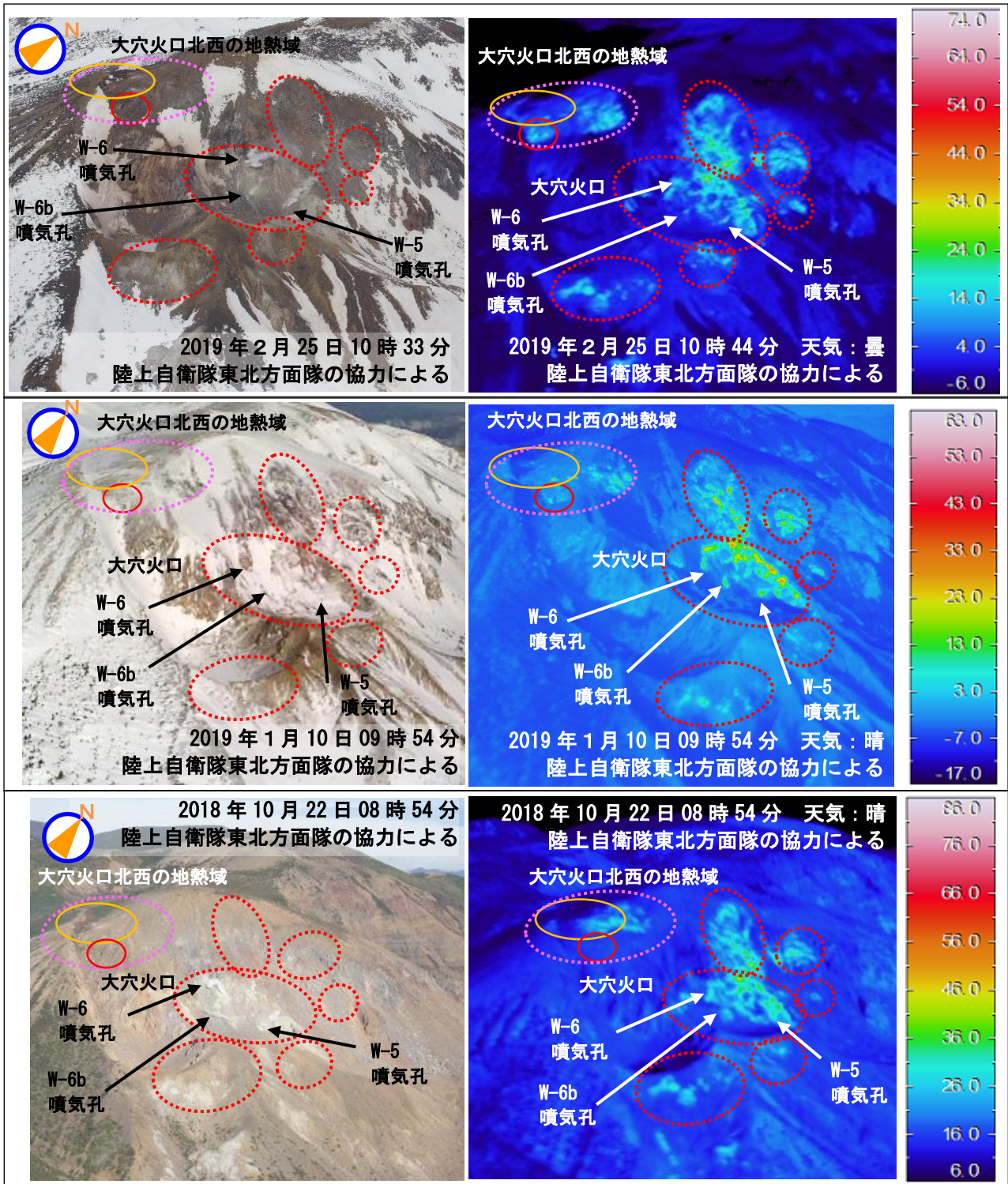


図2 吾妻山 上空から撮影した大穴火口及びその周辺の状況と地表面温度分布

- ・ 前回（1月10日）の上空からの観測と比較して、赤破線内の地熱域に特段の変化は認められませんでした。
- ・ これまでの観測と比較して、大穴火口北西では南側の地熱域で拡大（赤丸）、北側では縮小が確認されました（橙丸）。

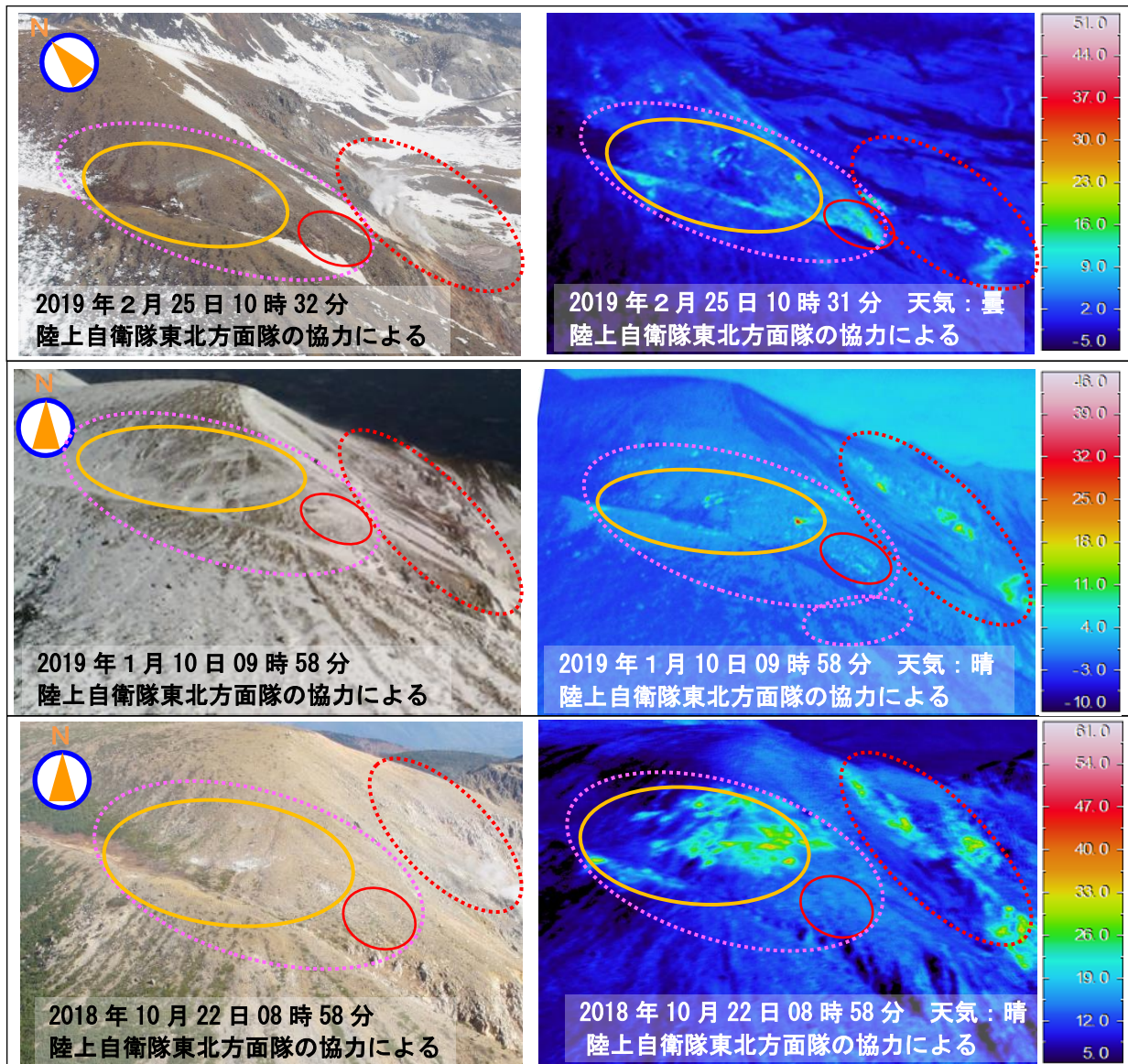


図3 吾妻山 上空から撮影した大穴火口北西の状況と地表面温度分布

- ・これまでの観測と比較して、大穴火口北西では南側の地熱域で拡大（赤丸）、北側では縮小が確認されました（橙丸）。
- ※赤破線は大穴火口付近の地熱域です。